

さいたま市スポーツ少年団海外姉妹都市派遣事業

今年度は7月30日から8月6日の1週間、アメリカ・リッチモンド市へ野球少年団を派遣しました。

団員総勢32名で、団長1名、選手21名、監督・コーチ・役員など5名、保健マネージャー1名、サポーター4名でした。

活動内容は、交流試合、ホームステイ、メジャーリーグ観戦、観光などです。活動を通して互いの友好の絆がより強く深められました。



リッチモンドへ向けて



ゲームは真剣勝負



ホストファミリーとも楽しい時間を過ごしました



試合が終われば、お互いの健闘を讃えあう



リッチモンド市長を表敬訪問



メジャーリーグを観戦!



地元プロ野球チームのホームグラウンドにて



ワシントンD.C. 観光





ボランティア養成講座

東日本大震災のビデオ視聴



消防士のユニフォームを着た留学生たち



意見交換会で発表する留学生



展示コーナーでの疑似体験の一幕



ボランティアと学生が揃って記念撮影

さいたま市防災センター見学会 —留学生と一しょに英語で防災を体験しよう—

昨年の本講座では、災害時に多くの在日外国人が理解しやすい「やさしい日本語」を学びましたが、今回は、通訳・翻訳ボランティアに登録されている方が対象で、英語を駆使して、外国人に防災を知ってもらう実践編です。

6月13日、6名の通訳ボランティアが、埼玉大学の留学生6名を含む9名の学生と一しょに、さいたま市防災センターを見学しました。同大学の留学生向けサマープログラムと連携した企画で、参加者は支援スタッフを含め総勢27名です。

2時間余りの見学では、東日本大震災の生々しいビデオ視聴からスタートし、通訳と学生が2グループに分かれ、展示コーナーで、消火器の使い方、火災VR体験、火災時の煙体験、地震体験などの説明を聞くだけでなく実際に疑似体験し、楽しみながらも熱心に日本の災害や防災の実態を学んでいました。ボランティアにとっては、消防士の説明や質疑応答を、その場で英語に通訳する実戦でのスキルアップの場となりました。

見学後に意見交換の場を設け、ボランティアは主に日本での災害体験を、留学生は見学の感想や自国との比較などを英語で述べ合い、交流を深めました。留学生代表のスピーチでは、多くの参加者から「単なる説明だけでなく災害の疑似体験や具体的な対処の仕方を知ることができ有意義だった」とのコメントがありました。今回の見学会で得られた知識や経験を、災害大国日本の取り組みとして自国の皆さんにも伝えてくれることを期待しています。終了時、参加者には災害編にふさわしい緊急簡易トイレパックが配布され、笑いを誘いました。

MY ボランティア STORIES



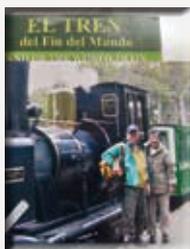
ふれあいフェア元実行委員長と(本人左)

国際友好フェア・ふれあいフェアで、長年ステージ担当のリーダーとして活躍されている、有江弘さんにお話を伺いました

有江さんは、昭和17年北京に生まれ、6歳の時に日本に引き揚げたとのことです。

大学時代からの第2外国語スペイン語は、現在も楽しんでいるそうです。

現役時代には営業部門で国鉄・JRの軌道・構造物関連の仕事で長く経験。スペイン語と鉄道には愛着があり、2007年に奥様と二人で、成田からヒューストン経由のフライトで、約30時間かけてブエノスアイレスに到着。翌朝フエゴ島に飛び、世界の最南端を走る「世界の果て列車」と呼ばれる蒸気機関車に乗る夢を達成されました。



世界最南端鉄道終点の国立公園駅で

そのあと、荒涼としたパタゴニアの

大地をめぐることもできました。

退職後、2005年にさいたま市国際交流協会の活動に参加、姉妹友好都市交流、センター交流会、はじめましての会などに参加され、特に国際友好フェアとふれあいフェア

のステージ担当リーダーとして長年活動されています。地域ボランティア活動とは別に、趣味の旅行・博物館見学、家庭菜園、リズムダンスなどでジム通い、83歳になっても時には18ホールゴルフを楽しんでおられます。

ボランティア活動はできる限り継続して地域に貢献したいという有江さんの強い意志が感じられました。

取材の最後に、「あらたな人たちとの出会いで、元気ももらっております」と有江さんからの感謝の言葉で、結ばれました。



2024年友好フェアステージチーム(本人左端)



アラスカから17,848KM panアメリカンハイウェイ終点のラ・パタイア湾ポスト前で

国際友好・ふれあいフェアのステージのパフォーマンス支援に興味・関心をお持ちの方は、気軽にボランティアに申込みいただけることをお待ちしております。

大好き!

SAITAMA さいたま



チッテーテーさん
(ミャンマー)

ミャンマーのチッテーテーさん
からのお話です。

さいたま市に来たきっかけ：

私の夢の一つは、海外で学び、いつか母国に戻って学んだことを多くの人たちと分かち合うことです。しかし、家族の経済的な事情から留学は難しいと感じていました。そんな中、日本の介護福祉士の学校で学ぶための奨学金やサポート制度があることを知り、夢への一歩をさいたま市で踏み出すことができました。

さいたま市での生活：

はじめは、知り合いも友達もおらず、日本語での会話も自信がなかったため、寂しさを感じていました。ですが、日本語学校に通う中で、外国人の友達ができ、日本語でやさしく丁寧に教えてくださる先生方に会いました。今では留学生活をととても楽しめるようになりました。出会った日本人の方々のファミリークラブにも参加し、当初の「寂しい」という気持ちは、少しずつ「楽しい」に変わっていきました。

日本の好きな食べ物：

寿司、特に日本でしか味わえないような高級な寿司、うどんや餃子です。



さいたま市での好きなところ：



▲大好き浦和おどり・本人(中央)

特に大好きなのは大宮公園です。季節ごとの花や神社、広くて緑が多く、夏でもゆったり過ごせるところが気に入っています。また、浦和おどりも大好きです。故郷を思い出すような温かさがあり、子どもからお年寄りまで一緒に踊る姿を見ると、「平等で平和に暮らせている」ことを感じ、とても羨ましく、幸せな気持ちになります。

に踊る姿を見ると、「平等で平和に暮らせている」ことを感じ、とても羨ましく、幸せな気持ちになります。

スピーチ大会で最優秀賞を受賞した時の気持ち：

そのときの嬉しさは、言葉では言い表せないほどです。自分の思いを伝える力と自信を与えてくださった先生方、そして、外国人留学生のために素晴らしい機会をつくってくださった、さいたま市の皆さまに心から感謝しています。



▲スピーチ大会、賞状授与時の写真

将来の夢：

将来は、日本で働きながら学び続け、母国のために少しでも力になりたいと思っています。特に教育の分野では、自分にできることを探し、行動していきたいです。



お気に入りのショット▶

私のお国自慢

スペイン、コスタ・デル・ソルの中心都市マラガ出身
セルヒオ・マテオ・アラングさん



2年前の日本語スピーチ大会の司会
(本人左)



新年度からの新シリーズ「私のお国自慢」第2弾は、日本語スピーチ大会の司会などで活躍した埼玉大学大学院博士課程のセルヒオさんの「マラガ自慢」です。

セルヒオさんの故郷マラガは太陽の降り注ぐという意味の「コスタ・デル・ソル」の

中心都市です。地中海の西の海域は「アルボラン海」と言われ、すぐ先のジブラルタル海峡から大西洋につながる魚介類の豊富な海で、「ポケロン」というカタクチイワシが有名です。

セルヒオさんの最初のマラガ自慢は、帰国したら必ず行く、床の白い石が光るラリオス通りと、旧市街の中心にある「片腕の貴婦人」*1という異名をもつマラガ大聖堂です。そこからは、マラガ市内や地中海を一望できる自慢の場所です。マラガは、



マラガ大聖堂と市街地の風景

画家のピカソが生まれ10歳まで育った町で、ピカソ美術館もあります。

2番目のお国自慢は、お母さんの作ってくれるアンダルシア料理のプチェロ(フィデオというショートパスタ、豚肉、鶏肉、野菜、ひよこ豆などの煮込み料



母の自慢料理プチェロ

理)です。お母さんにプチェロの写真を送っていただきました。クリスマスにスペインに帰るときは、お母さんのプチェロと鶏肉アヒージョを無性に食べたくなるそうです。ラリオス通りのイルミネーションもすばらしいので、クリスマスの休暇に、またマラガに帰省することが、たいへん楽しみだそうです。

セルヒオさんからは、もし読者のみなさんがスペインを旅行されるときは、コスタ・デル・ソルのマラガに、必ず訪れてくださいとのことです。

*1 片側のもうひとつの塔は、18世紀の終わりごろ資金不足で中断されたため「片腕の貴婦人」と呼ばれている。



アルボラン海をバックに
(左から本人・母・友人)

母とセルヒオさん



はじめの
一歩

ボランティア 養成講座



外国人に日本語をどう教えるの？

5月24日(土)、浦和コミュニティセンター9階にて81名が受講しました。講師は日本語教育アドバイザーの有田玲子さん。本講座は、文科省地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業を活用したものです。市内在住、在勤または大学生で日本語を教えるボランティアに関心があり、まだボランティアをした事が無い人を対象にしました。

外国人*¹が一番困っていることは、日本語で話す・書くこと。生活するための一番の関心事は、日本語を勉強すること。外国人に話しかける場合、やさしい日本語を短い言葉でジェスチャーも交えるのが大切。判りやすいスライド映写を利用しながら、はじめの一歩としてのボランティア活動の仕方を学べる内容でした。「市内にボランティアによる日本語教室*²があるので、参加について直接尋ねてみてはいかがでしょうか」と講師からお勧めがありました。受講者アンケートの中には「そうなのか！納得。あっという間の2時間でした」と回答があるほど盛況の講座でした。

* 1 令和7年の調査によると、さいたま市在住外国人はおよそ3万6千人

* 2 配付資料には18ヶ所の日本語教室が記載



会場にぎっしり詰めかけた受講者



講座の様子



ワークショップ風景



募集中!

ホームステイボランティア

国際交流センター窓口で登録ください。

詳しくは、<https://stib.jp/international/volunteer-entry/>

★ IECで募集するホームステイについて

- ▶ ホームビジット 宿泊なしのプログラム
- ▶ スポーツ少年団受入 隔年、一週間程度
- ▶ ワンナイトステイ受入家庭 土曜から1泊

2025年10月以降の受入家庭希望プログラム予定

- 海外日本語教師教授法研修 (秋期) 10月下旬
- 海外日本語教師基礎研修 11月中旬



(公社) さいたま観光国際協会会員

当協会の活動にご賛同いただける会員を募集しています。

入会につきまして下記サイトより

入会案内

<https://stib.jp/member/admission/>

会員特典 (一例)

各種交流会、語学講座、研修会など
協会主催イベントへの優先案内 (一部優待あり)
会報誌等の送付 など

ご入会についての問い合わせ先

048-647-8338 (総務課 会員担当)



10&11月の主なイベント



10/12 (日) 国際ふれあいフェア2025

10/18 (土) ミニ講座 (ミャンマー)

はじめましての会

さいたま市に暮らして間もない
留学生や市民との交流会



10/28 (火) センター交流会

海外で日本語を教える外国人の教師の皆さんとの交流会

11/29 (土) ボランティア養成講座

犯罪に巻き込まれないために知っておきたい防犯知識の基礎を学ぶ、どなたにも参考になる講座です。



秋のイベントには是非ご参加ください!

← IEC ホームページ



今までの IEC NEWS は
こちらから▶

皆様からのご感想、
お待ちしております。



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルク上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://stib.jp/international/>

